

2023年3月30日

## 山陽線 瀬野駅～八本松駅間で発生した貨物列車脱線事故 に関する鉄道事故調査報告書発表を受けて

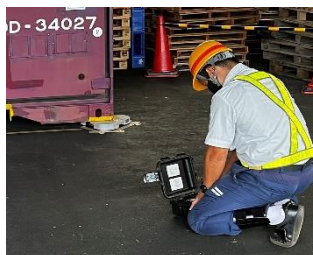
本日、国土交通省運輸安全委員会から、2021年12月28日に山陽線 瀬野駅～八本松駅間で発生しました貨物列車脱線事故に係る鉄道事故調査報告書が発表されました。この事故で、弊社の貨物鉄道輸送をご利用頂いているお客様、旅客列車をご利用のお客様、西日本旅客鉄道株式会社ならびにご関係の皆様にご迷惑をお掛けしましたことを、改めて深くお詫び申し上げます。

弊社といたしましては、別紙に記載の再発防止対策を着実に実行するとともに、利用運送事業者等、貨物鉄道輸送に関わる事業者とさらなる連携を図り、安全管理体制の強化に取り組む、輸送の安全確保に万全を期して参ります。

## 山陽線 瀬野駅～八本松駅間で発生した貨物列車脱線事故の再発防止策について

## 1 偏積でないことを当社が確認する仕組みづくり

- (1) ポータブル重量計によるサンプル調査の数量と対象を大幅に拡大したほか、荷姿の管理状況の実態確認を定期的に進めています。
- (2) 偏積が認められた際の再発防止のための業務改善手順を構築し、原因と対策を明確にした上で、再発防止策の実行状況をフォローする体制としました。
- (3) 輪重測定装置、トラックスケール等による検知体制を順次整備しており、偏積のあるコンテナの発送を防止して参ります。



【ポータブル重量計】



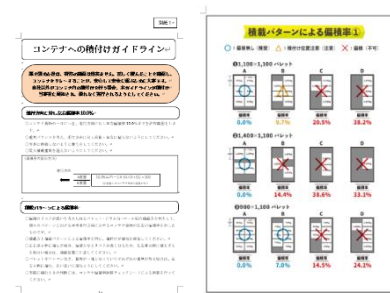
【輪重測定装置】



【トラックスケール】

## 2 利用運送事業者が偏積でないことを保証する仕組みづくり

- (1) 貨物運送約款改正（2022年4月）により、利用運送事業者の責任を明確にしました。
- (2) 偏積のないことを利用運送事業者が保証しないと当社への託送申込みができないよう、システムを改修しました。
- (3) 利用運送事業者及び積込会社向けの教育と「コンテナへの積付けガイドライン」の周知を進め、継続的に偏積防止に関する教育と情報共有を図って参ります。



【コンテナへの積付けガイドライン抜粋】

## 3 列車防護および転動防止の取扱いの確実な実施

- (1) 運転台の防護装置を模した機器と、実際の事故を想定した映像や画像を使用した教育の実施に加え定例訓練の効果をより高めるために、記憶に定着させる仕組みを取り入れました。
- (2) 運行管理に関わるマニュアルの変更の際、運行管理の受委託を行う各鉄道事業者間で変更を事前に通知する仕組みを構築します。

## 4 「鉄道貨物輸送における偏積対策に関する検討会」の提言による取組み

- 3月29日にとりまとめが公表されました「鉄道貨物輸送における偏積対策に関する検討会」の提言を受けまして、利用運送事業者と連携し偏積防止の取組みを徹底して参ります。